

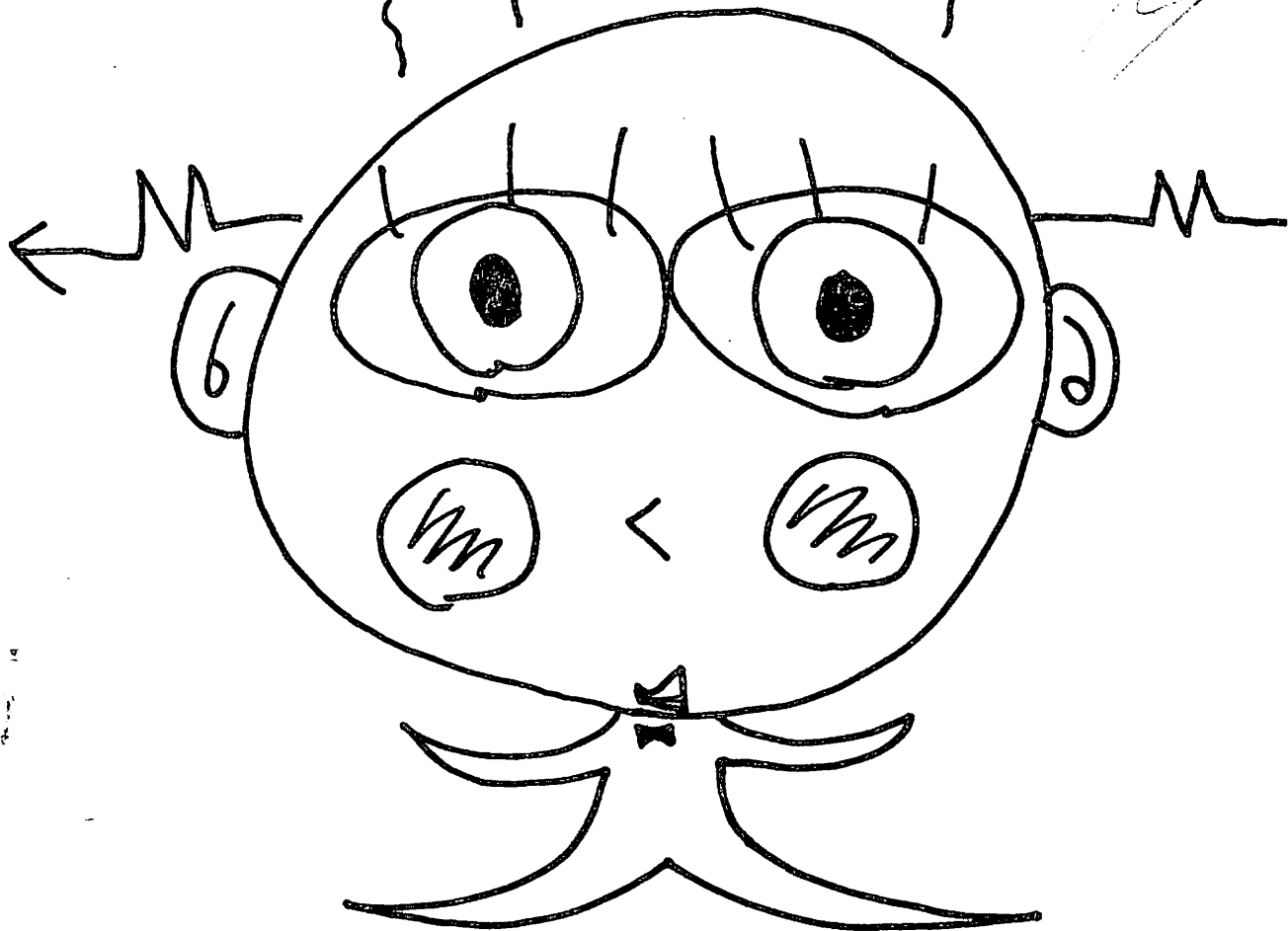
秋・初冬

山行報告書



and 個人の総括

99



信州大学山岳会

もくじ

個人山行報告 ... P3~P13

個人の総括 ... P14~P30

山崎まさよし

ONE KNIGHT STAND TOUR 1999-2000

日時: 1999年11月30日(火) OPEN18:00 START18:30

会場: 長野県県民文化会館

指定席 ¥4,725

主催: キョートー北陸

企画/制作: オフィス オーガスタ/オーガスタ ハ°プロダクション

後援: ホリトール

2階 け列 24番

お問い合わせ: キョートー北陸 025-245-5100

個人山行報告

だ
!!

奥穂高岳から西穂高岳そして西穂沢。7月17～18日 L野田(4) 岡本(3) 横山J(2) 横山(輝)(2)

5時30分BOX発 8時30分白出小屋 奥穂高岳山荘T.S 13時奥穂高岳山頂。13時50分T.S。

7月18日3時30分起床 雨が降っているので5時まで二度寝する。6時30分発。9時15分白出小屋。

雨が降っていたため往路を下山することになった。残念だった。

ちなみに西穂沢は西穂の稜線への登下降に使える。白出の登山道への合流地点まで下りで20分ほど藪であるが、たくさんマーキングしておいたので問題は無い。登りに使う場合は白出の登山道が沢に向けてトラバースに移るとき小さな尾根をのっ越すために左にU字カーブするが、曲がらず直進する。左に尾根を感じつつ尾根沿いを行くと、がら場に出て藪こぎ終了。後は登るのみ。下るときも右手の尾根沿いに下る。沢の中心を行くと林道まで延々藪こぎなので注意。

後立山縦走(鹿島槍から白馬鍵)

期間: 9月10日から13日

メンバー: 岸本, 岡本

10日 大谷原発7:30, 高千穂平10:00, 冷池山荘11:30着

赤岩尾根は去年の冬の印象が強烈でもっと時間がかかるものと思ったが、荷も軽くすぐついた。寝不足のせいで先に進む気になれずテントを張ってのんびりした。

11日 出発5:00, 五竜岳10:10, 唐松山荘12:30, 天狗山荘3:50着

この日は少しがんばってたくさん歩いた。天気はあまりよくなかったがこの区間のだいたいの概念はつかめた、不帰ノ俣は冬に通過するとなると怖いところではなかなか厳しそうである。しかしながらいったどこまで雪がつくのかはわからないので細かい偵察はこの山域には無意味なのかもしれない。唐松山荘で千葉の実家のご近所のおばちゃんに会った。奇遇な出来事だった。

12日 出発6:00, 白馬鍵ピストン, 猿倉10:00着

途中にある鍵温泉はいいところだった。

西穂高 ~ 槍ヶ岳 ~ 大天井岳 ~ 燕岳

山 大木 信介, 山 中島 辰哉 9/11 ~ 9/14
9月11日 松本 ~ 上高地 ~ 西木山荘 2P ~ 梨勝
9月12日

4:30 起床
5:30 出発
7:15 西穂高岳
9:05 間ノ岳
11:40 奥穂高岳
12:30 奥穂山荘 T.S

早朝は北木お兄さんといっしょに話しかけたが、疲れたのでヤメ。白出のころから常念を眺め、二丁でC-1をみた。

9月13日

4:30 起床
5:40 出発
7:15 北穂高岳
10:30 中岳山頂
11:30 槍ヶ岳
14:50 西岳ヒュウ

ハイ！今日も疲れました。よ歩。槍ヶ岳の先は冬合宿の下見もかね、ゆっり写真を撮ったり地図に記入しながら進む。

9月14日

4:30 起床
5:30 出発
12:00 中房温泉

大天井は天気がわるいのでパス。燕山荘で岸本に連絡をとり、駅にきてもらった。ありがとう。

結論：西木 ~ 槍ヶ岳は激コワだが、今の我々でも不可能では無い。

北岳ハットレス とほん

山行期間：1999年 10/9 ~ 10/11

メンバー：L川井(4年), 日高(3年), 中村, 中川, 石岡(1年)

10/9 16:30 広河原 登
18:20 白根御池小屋 T.S. ・おでんがとっても美味。

10/10 3:30 起床 ・天候に関しては文句なし!
4:30 登 北岳山頂からの夜景も、
6:30 登ハシ開始 てもロマンチックな。

★川井, 中川 P.

↓ かり〜下部フランケ〜上部フランケ 13:40 終了, 14:55 山頂
・下部フランケ取り付きで1時間程待たされる。中川はホリ
シーを持っついていねいに登っていた様に見える。それにしても
4尾根での合流点での人の多さで水の入ったホリタンが上
かすぶってきたのは閉口した。ハットレスでは少々こわい
が、柔軟なルート取りをしてもあまり問題ないように思う。

★日高, 石岡 P

↓ かり〜下部フランケ〜^{迷う}4尾根主稜 17:10 終了, 17:50 山頂
・ルーフアイヌも重なってかなり時間がかかる。^(岩)高所の苦手
な石岡にはこわい思いをさせてしまった。

20:00 T.S. ・モリなへがとっても美味!!

10/11 7:20 起床
8:30 登
9:20 広河原

・中村が体調不良のため、ヘース待機とした。日高Pも待た
なかななか現木が中川を先にヘースまで下した。シーバーが
混線して使えず、ヘースには1年生の人残っている。こんな状況は
やはりあまりいいものではない。予想通り人がウジツいたか? S級
以上のグレードのあるルートにはあまり人が来ないという事を知った。
やはり、こんな状況でものを言うのは強引さなところ。 川井

北アルプス / 霞沢岳・六百山

10/23 ~ 10/25 (2+1)

2. 横山 勝丘 岸本 俊朗 松寄 林太郎 横山 暁生

10/23 松本 = 上高地 ~ 明神 ~ 徳本峠 ~ 白沢源流 T.S
1000 花 1055 1120 1220 || 1250 1530
快晴

10/24 T.S ~ JP ~ 霞沢岳 ~ JP ~ 六百山 ~ 1245
快晴 545 605 || 615 635 || 655 710 || 720 850 900 1020 || 1045 1150 1200 1255

~ 上高地
1405 着

春の復察のための山行。前日のためで出発が遅れたが順調に進む。T.Sは夏道とに何とか13張。翌日は雲一つない快晴。霞沢岳からの穂高は非常にすばらしい。JPから霞沢岳間は天彦側に雪庇ができてう。山頂付近は良いT.Sとたじろ。JPから六百山まではひたすら頭を越すハイマツのヤブごき。ヒにかくすごい。春、このハイマツが埋まらなからたら...。たまたま岩稜帯が出てくるが、右側は概ねなだらかな斜面。左側とは大違い。六百山頂は眼下に上高地が見え、穂高が超デカイ。下りで1ピッチ懸垂。恐らく春はここが核心だろう。そこから下の楷木林帯は急な下りだが、ふみおとがおりおどろく。最後はバスターミナルに直接出る沢を下り終了。秋山を満喫した。春が楽しみ。



明星山P6南壁

期間：10月21日から22日

メンバー：岸本（3）横山勝（2）

21日 直上ルート

前日少し雨が降っていたので日が昇って壁が乾くまで待ってから取り付いた。取り付きは少しわかりづらい。1ピッチ目は岸本がリード。傾斜のきつい凹角で時間を食う。2ピッチ目は横山がリード。逆層気味のところをトラバースするところからこのピッチは始まるが、3メートル進んだところでホールドが砕けるように壊れ横山がフォール。すぐ近くだったのでテンションでビレイポイントまで戻る。岸本が交代して登るか迷うところだったが、あまり気が進まず、横山も少々気落ちしていたのでそこでやめにした。次の日に予定していたクイーンズ・ウェイもこのため自動的になしになった。行き場を失った二人は日本海へ向かい、海をまえに来年のリベンジを誓い憂さを晴らした。そのまま降りずに行けば行けただろうが、調子の悪さ、事前の登りこみ不足などを考えると降りて正解だった。なんとも苦い経験だった。

10月23日 湊沢岳北西尾根 L野田（4） 梶原（2） 石岡（1）
中川（1）

前日槍見温泉入り。白出小屋まで車で行く。6時40分白出小屋発 7時25分滝谷避難小屋。ここより北西尾根に取り付く。おいおい待ってくれよ、という急登である。笹だかなんだか知らないが。藪こぎである。唯一大木の根元だけが休めるところだ。

途中、中川が眼鏡を藪にもぎ取られ、一時騒ぎとなる。9時35分2200m地点。11時50分P3。13時P1。13時15分湊沢岳西尾根に合流する。時間切れのため、湊沢岳ピストンは諦め、白出大滝に向かってガレ沢をひたすら下る。落石には十分注意したいところだ。14時30分。白出沢の登山道に合流。ほっと一息。16時10分白出小屋。

ルートの藪こぎがすごいものの上部のナイフリッジ等結構面白い。冬に行くならかなりのグレードがつくだろう。頼りない残置のfixが上部にはある。白出大滝から湊沢岳西尾根に突き上げるガレ沢は三回ほど利用しているが、落石さえ気をつければ問題無い。夏季に湊沢岳のピークから西尾根を下山し、途中からこのルートを使って下まで下山するなど、一般ルートに飽きた諸氏には面白いかもしれない。ちなみに西尾根の下部は夏でも結構道らしき物が残っており、登りにはつかえる。下りはルーフアイに気を使うので、それが目的で無いなら薦められない。



冬合宿下見(東鎌尾根)

山行期間: 1999年11/2 ~ 11/4

メンバー: L. 川井(4年), 岸本(3年), 日高(3年), 梶原(2年)

11/2 5:00 松本 啓
 8:05 白川小屋
 9:45 槍平
 13:40 肩の小屋 T.S

・白川小屋まではおっというま。
 2ピッチ分もいけた。
 飛た沢をつめるか、この時期
 は特に問題ないだろう。

11/3 4:30 起床
 6:15 啓
 8:30 水俣乗越
 13:35 大天井 T.S

・今回のメインの東鎌。
 肩の小屋からカット大槍まで
 て西岳の登りがいい。
 夏道が使えないでハテするん
 たろうな。

11/4 4:30 起床
 5:45 啓
 7:25 常念小屋
 8:45 山頂
 11:50 三股

・大天井~常念は特に問題
 になる所はなし。
 帰りは日高の串が大活躍。

・この時期は、ワカンこそいいものの、基本的に冬山の
 装備を用意した方がいいだろう。

東鎌は冬合宿でも行ける感もつかない。

川井

冬合宿下見(笠ヶ岳)

山行期間: 1999年11/6 ~ 11/7

メンバー: L. 川井(4年), 麦谷(4年)

11/6 5:30 松本 啓
 8:00 槍見温泉
 15:20 笠山頂 T.S

・終止がうかうと登る。
 山頂から見た時の「美し」
 で、冬合宿は広サコではなく
 南西尾根に決定。

11/7 5:15 起床
 7:00 啓
 13:20 新穂高温泉

・笠ヶ新道を下る。
 抜戸岳南尾根は冬期は
 とってもイヤらしいだろう。

・先日、槍から見た印象とはほど遠く、J.Pまで雪が出てこなかった。
 笠山頂から見る夜景はとんでもきれいな。

富士山

山行期間：1999年 11/13 ~ 11/14

メンバー：L 川井(4年), 原田(5年), 横山(ジヤ)(2年)

11/13 4:00 松本発 ・ 五合目は人が多い。
9:00 五合目発(スバルライン) 山なのに登山者が目立
11:50 七合目 T.S っのはどうしてた?

11/14 5:15 起床 ・ ちー快晴で無風。
6:25 発 おは5回りで360度の大
8:30 吉田口登山道山頂 パノラマを満喫する。
13:30 五合目 山頂では歌を歌いなか
歩いてはいけない事を知った。
(酸欠かうまい)

。入山前に積雪期の富士山での事故率は1割という話しを聞き登山口でも「昨日外国の人が7人で運ばれた」という話しを聞きかなり心配した。たが登ってみて納得。観光地の延長で考えたらイカンよ。ただ天候が悪い時には非常にシビアな山になるのは石事実。

川井

南八ヶ岳

(1999年11月13日~11月15日)

メンバー：L 梶原(2)、大木(3)、松寄(2)、石岡(1)

11/13 (土)

6:10 美濃戸口出発 7:05 美濃戸山荘

8:55 赤岳鉱泉 11:00 硫黄岳 12:30 横岳

14:30 赤岳 15:45 キレット小屋 T.S

朝のうちはガスっていて少し心配だったが赤岳鉱泉に着いたあたりから、晴れてきた。去年の敗退のリベンジということだったが今年は全く雪がなくて赤岳鉱泉の手前まではジョグシューで行けた。天気は終日良くて北ア、中ア、南ア、富士山まで素晴らしい展望だった。

11/14 (日)

5:00 起床 6:30 キレット小屋 T.S 出発

8:10 権現岳 9:40 編笠岳 11:45 観音平

今日も素晴らしい天気。権現岳の登りの梯子にはちよつと参ったが、雪が少ないせいで何の問題もなかった。権現岳、編笠岳の山頂でかなりウダウダした後、のんびり下りた。観音平への下りは森がきれいで気持ちがいい。プレ冬前の一年生には歩くという意味にはいい経験になったのでは。

錫杖岳 (左方カンテ) とほん

山行期間 : 1999年 10/23

メンバー : L 川井(4年), 野子川(1年)

10/23	5:10	槍見温泉発	。メンバーの都合により、
	6:10	クリヤ谷	ールンセに行けなかった
	6:50	取り付き	のか残念ではあった
	7:20	登山開始	か。なかなか楽しかった。
	11:30	終了	ゴローとサイル組むの
	11:50	懸垂開始	は夏合宿に続いて2
	13:50	取り付き	回目。たまにホカミス
	15:30	槍見温泉	をするかよく考えてい

る。懸垂中に下がる人

がワサワサ登ってきたのにはまいった。かイトの人と途中から協力して下りたので時間短縮宿。人は見かけや雰囲気
で判断してはいけない。

川井

戸隠山 (1999年11月20日~11月22日)

メンバー: L 梶原(2)、川井(4)、麦谷(4)、日高(3)、ノック(2)

11/20 (土)

6:40 西岳登山口出発 9:35 天狗原

時間、プレ冬が来週だった事、精神状態から敗退を決定

13:05 西岳登山口着

僕は長野に住んでいるので戸隠への想いは何か特別なものだった。いつか冬に行きたいという念願のために一度行かねばということで計画を出したのだが…。始まりは最初の登山口への入り口があまりにも不明瞭だったこと。道らしきものがあつたから適当に下に下りていたらドツポにはまってしまった。道を見つけれないまま藪をこいでようやく天狗原に着いたと思つたらもう9:30。予定ではP1尾根の上部にはいるはず…。プレ冬前ということで無理はしたくないので敗退を決定。天狗原はとても良い所。北の国からチック。トラクターがある(ノックの)。

今回の山で学んだ事は大きかった。登山道を当てにしすぎた事だ。地図の登山道は人が歩かなければ廃道になるし、間違っている事もある。しっかりと地形を読む事が大切だ。冬合宿でも同じ事ではないだろうか。林道を信じ過ぎていた事。今年こそは必ず行くぞ!!

八ヶ岳大部隊 結果発表

メンバー 山 大木, 原田, 川井, 中島, 麦谷, 岸本, 日高
横山J, 横山N, 梶原, 松寿, 野川
石岡, 中川, 中村

12月11日 悪天候のため アイスクライミングに変更
ジョウゴ沢と鬼洞ルンデ

12月12日 ① 原田, 大木, 岸本 ... 計画書の関係上 大同仁は
行かず, 小同仁は みんな行って
いるので 今日でも シュショアイス
クライミング。
ジョウゴ沢右保の大滝をリド。

② 麦谷, 横山x2, ... 石曽稜 隊は 取り付きを待
野川, 石岡 がいえ 早々の退散。BCにて
一日中 クリムト あり(れる。
あわれなり)。

③ 川井, 中村 ... 赤岳主稜 みじ!! 実りある
梶原, 松寿 一日。おめでとう。

④ 中島, 日高, 中川 ... 阿弥陀岳北稜 完登!
やったぜ。ポカポカおた
か おすめルトらしい。

以上 なんちゃってリーダー 大木です。

*反省 ... 人数に圧倒され 悪天候の時の計画変更
をリーダー 部員で 計画書 作成時に話し
合っていたらよかった。 あいかりが

意見 ... 八ヶ岳西面は 剣のハツ山峰のような
ものであり, もっと 柔軟性に富んだ
考え方をしてもいいのでは。

ハイッガイ

赤岳主稜	メンバー: 梶原、松崎、川井、中村
6:20	登。人か多かたか、3、4番目に登り
7:30	取り付き。はいめをため、たすか、た。中村は
8:30	登はん開始。1つ1つがていねいて、見ててな、て
11:30	登はん終了。安心。カジ、林太郎も、基本に忠実
13:10	B.C. に登、ていた。それにしても、シングルロー プで登、てくる人か多かた。

川井

八ガ岳 裏同心ルンゼ

山行期間: 1999年 12月 15～16日 (2+0)

メンバー: L 麦谷水郷、岸本俊朗

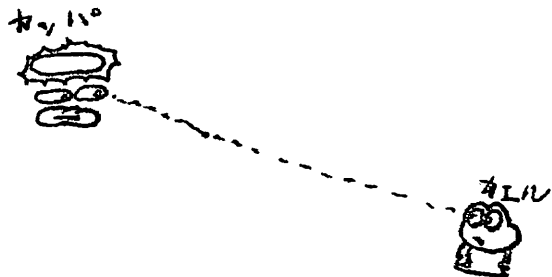
記録 12月 15日 (水) 松本～美濃戸口～コンビニ巡り～美濃戸口 12:30

12月 16日 (木) 起床 4:30 → 美濃戸口発 6:00 → 赤岳鉱泉着 7:30 →

登はん開始 8:30? → 大同心稜着 11:30 → 赤岳鉱泉着 12:30
→ 美濃戸口着 2:00

感想: 瞬殺。

反省: 時計を二人して忘れてしまった。



三ノアム山行

屏風岩～前穂北尾根～奥穂～西穂 縦走

199, 12.26～2000, 1.4 リーダー 花谷 & 原田

12/26 5:30 Box S 7:00 中の湯 A, 7:45 S 9:10 上高地 A

13:30 横尾

12/27 4:00 起床 5:40 S 6:30 梓川 渡渉

8:30 T4 尾根取付き 16:50 T4 A

シーズン初登のため、横尾岩小舎跡よりラッセル。膝ぐらまでたまたたきで歩いた。T4 尾根は、岩壁部分ほ1Pのみ、あとはT4までラッセルだった。荷上げが大変。1P目リドに1時間半かかった。

12/28 4:00 起床 6:15 S 14:30 敗退し往路懸垂

15:50 T4 天場に戻る。

東穂に行く予定だったが、T4～T2の雪の状況が悪く、あきらめた。こゝで下りるのはくやしいので、蒼嶺～雲嶺で抜けようとしたが、屏風岩テラスから1P登った所で進めなくなり下降した。継続には蒼嶺を買得。

12/29 4:00 起床 6:15 S 7:05 T4 取付 8:25 横尾小屋

9:40 新村橋 10:45 ぶぶ山 12:30 慶応乗越 14:00 2640m コル A

T4を懸垂で下りて、横尾に戻り、慶応尾根を登り返す。気温が高く春のようだった。

12/30 4:00 起床 6:30 出発 8:25 5.6のコル 12:10 前穂P 14:30 奥穂

15:10 口バの耳の216 下り

今日の天気はいい。フーンと晴天。3, 4のコルまではザイルを出さなかった。三ノ峰の4mニ以外登はらぬ所はあった。所々岩が3mか、トレスもあり、思ったより楽に抜け出せた。

12/31 4:00 起床 6:40 出発 8:50 天狗のコル 12:10 西穂P 13:00 西穂山荘

15:40 上高地 17:30 中1湯 A = 松本

奥穂→西穂間はジヤングルA付近以外はアプタウンのまわり岩稜で、アヒラクワの気は許さぬ。天場は下くまある。西穂の人の多さに嫌気がさして下り。



個人の

総括

in

1999



No. _____

一年間の総括

中村まー

今年1年間で、自分は大きく変わったと思う。それは、今まで“本の世界”でしか読んだことがなかったことが、現実的に、そして、現実的に近づきつつあるからだ。ただ心残りの事は、冬合宿に参加出来なかったことである。この事におよ、山行を経験が減るのは残念でならない。もう一つ、これは反省であるが、やはり体力不足である。春、夏、秋、冬合宿といつもバテ続け、バテることがトラウマに(今もバテルがトラウマとは言えないかもしれないが)なり、登りながらバテることがばかしく見え、周りが見えず、いつも不安でしかた。時々山をやめようかと思っただけもあった。しかしこの考えるのはものすごくバカらしい事である。やめること、あきらめる事ほど簡単なものはない。続けることの大切さを自分は知っている。だから丸はこんな事では絶対に負けたい。これは今年目標があった。この目標をつかむために、目の前の課題である。体力不足、そして、バテル不安を乗り越えたいと思う。そして来年度くる1年に信頼される様に、残りの日々を大切に生きていこうと思う。

雪印
牛乳成分無調整

1000ml
地域によって、売価が異なります。

9 813700 400039

今年1年を振り返って

今春に信州大学山岳会に入会して以来約1年、年度末の総括でもある冬合宿も無事終わり、ここに改めて1年の反省と感想、そして来年へとつなげるための目標と意気込みを書こうと思う。私、野川謙介は今まで山登りが好きだったわけでもなく、ましてやアウトドアは大嫌い、テント泊まりなんてイヤでしょうがない、そして1日2回はお風呂に入らなければ気がすまないというような本当にどうして山岳部に入ったのだろうと親にも心配されるような人間だった。なぜ山岳部なのかと言うと、そもそも事の始まりはこまくさ寮でブロックが同じで顔見知りだったS君とたまたま山岳会のガイダンスを受けたことから始まった。ガイダンスにはほかに誰も居らず、僕とSは半ば強引に話を聞かされる形でガイダンスを受けた。話していたのは川井さん（現CL、4年）と岸本さん（次期CL候補、3年）だった。二人ともその当時の僕らにとってかなり怖い感じの人で僕とSは帰り際、山に登っているとああいう感じに野生に近くなってしまうのだろうか、なんて事を話していたのを覚えている。

その後僕ら両方とも山岳会に入会することになるのだがそれまでの経過はここでは省略させていただく。さて新人合宿で本格的な山登りの厳しさというものを強烈なアッパーカットを食らうように教えられた僕らはほとんど戦意喪失状態、僕とSは下山と同じに退会する気でいた。結局Sは合宿後すぐ辞めてしまうのだが、僕は辞めるタイミングを失ったため、とりあえずもうちょっとやろうという事にした。

一年生と二年生で行く夏の縦走合宿では、僕はジャンボ横山さんと中川さんのグループに混ぜてもらうことにした。このグループの縦走計画はジャンボさんが作り出したものだったのだが、計画自体がとてもユニークでバラエティに富んでいてとても楽しめた。まあ中にはあまりにもユニーク過ぎて泣きたくなるような物もあったけれど、とにかくジャンボさんと中

川さんと共に過ごした山中での11日間は最高だった。

夏合宿についてはあまり述べることは無いかもしれない。雨に泣かされた為、内容的にはあまり密度の濃いものではなかったと思う。歩荷も思っていたほど辛くもなく、ちょっと山に登ることに自信を持ち始めてきたのもこの頃からだったように思える。

プレ冬合宿と冬合宿は期待通りの充実した合宿だった。中村さんが病気でこれなくなるというアクシデントは残念だったけれどそのまま連れて行ったらもっと大変なことになっていただろうと思うと、彼自身が自分に下した決断は正しかったと思う。僕はプレ冬でテントを燃やしかねないミスをしたので、冬合宿本番にあたって何事にも細心の注意を払おうと心に決めていた。そして出来る限り素直に合宿中くらいは上級生のいう事を聞こうとも決めていた。結果としては上級生は僕ら一年生のことにも細かい注意を払ってくれたので僕らは初めての冬合宿をとっても充実したものに感じられた。

今まで幾度度とも自分がこの会に所属していることに対して疑問を持ちながらやってきたが、1年の終わりが近づくこの時期になってやっとその疑問に対する答えが見つかりつつあるような気がしてきた。なんだかんだ言って僕は山が好きなんだという事実もだんだんはっきりしてきたような気もする。この先どうなっていくのかはWho Knows?って感じだけれども、とりあえず今は今やるべきことを一所懸命に頑張っていていきたいと思う。

“A tunnel may last forever, but so can the hope to get out there”

2000年1月16日

野川謙介

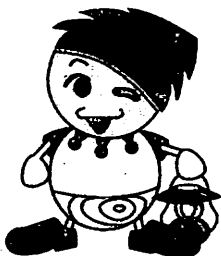
今年一年の反省

石岡春彦

一年経って、自分は山に少しだけ慣れたと思う。
様々な自然条件を知り、それは過烈でもあり、
恵みでもあつたのだが、その多くに適応できるようになった。
山歩きは楽しいというところ。同時に高いところは怖い
ところを発見した。山を通り得たものは大きい。
ただ山への姿勢が消極的に過ぎたという感はある。
もっともっと山に積極的に関わっていければいいと思う。

来年の抱負

自分独自のやりたい方向性を模索した。
僕は尖ったところよりも平らなところを好むようだ。
どうも登山とは矛盾した意見のようだが、そういうわけ
ではない。山に登ることも自分の特質との重なり合う
ところを見つけ、それを追求していきたいと考えている。



信州 ▲ 美鈴湖もりの国

〒390-0302 長野県松本市大字三才山1871番地

予約受付・お問い合わせ (予約開始日 4月7日から)

TEL.0263-46-9990

受付時間 / 午前9:00～午後5:00

入会した当初は いずれの山行も体力不足で自分自身のことでは
 考えることができていなかった。1日何をしていたのか、1時間どうやって
 歩いてきたのかわからないう時もあった。そこから時がたち、山に
 登ること、山に慣れ、山に登ること、体力もついてきた。信大
 山岳会の1年の集大成である冬合宿を無事に終わることができた
 とはいえ、あらゆる面でまだまだである。まだ1年間終わらな
 かったのはいい。2月の合宿、そして来年度へ向け課題は山積みである。

・今年、反省

・体力不足

・来年の抱負

・体力をつけるために今年以上に山に入る。

・体力をつけることで各山行を余裕を持って行う。

・余裕を持つことで状況判断、周囲に目を向ける力を養う。

1年を振り返ってと今年の抱負

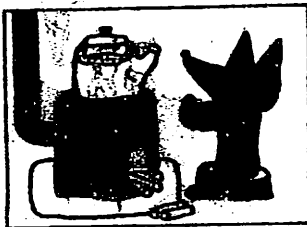
去年は冬合宿の途中下山から始まった。春にも十分に山に行く事が出来ずに二年生としてやっていくことに自信がなかった。それを補うために行けるだけの山に入った。その分、今年の冬合宿の成功は大きな自信にもなった。ようやく一つの大きな壁を越えることができたと思う。

冬合宿では仲間との絆を感じる事が出来た。いろいろな問題や葛藤があったけれどもそういったことを解決する事で会として成長する事が出来ると思う。全く異なる個性が集まり一つの目的を目指して同じ道を歩む。そこには何かがある。言葉には出来ないけれど、その何かをみんなが常念から下りてきたときにそれぞれ感じたはずだ。自分はそれが絆だった。僕は独りでは山には行けないし面白くもない。仲間と一緒にだからこそ意味がある。そういう山登りがしたい。

今年はやりたいことがいろいろとある。またそれが出来るくらいになったと思う。具体的には夏に北鎌の偵察、冬には戸隠や北アの縦走などなど。つまりは「山に行く」その一言だ。

そして何よりも人と人との絆をより深めていく。もっともっと本音をぶつけてより良い山岳会を築いていきたい。

二年 梶原 恵



山小屋の日記帳から
キミのもあるそ
落書き寄せ書き
大集合!

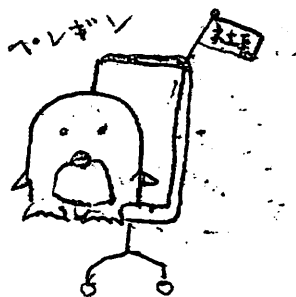
今年度の総括及び来年度の抱負

松寄林太郎

去年の今ごろ、このままで2年生になって大丈夫なのだろうかという自分がいた。あれからもう1年か、、、あのころの自分とは少し変わった気がする。そう思えることが、今年度の最大の収穫だと思う。夏合宿に向けていった、縦走、本チャン、岩トレ。冬合宿までに行ったさまざまな山行の一つ一つが思い出としてそして自分の力となっていったのだろうと思う。下界でうだうだしていても何も始まらない、山へ行って初めて次が見えてくるのだというのを身をもって感じた一年でした。

自分の性格上か、実力の無さか、人が立てた計画についていくというのが多い。来年度の抱負は自分の行きたいと思う山、ルートに行くことだ。また、山以外のことになってしまうが、森林、林業のことについても真剣に勉強していきたい。エレキについても、、、今年でボッカが終わった。だからつまみと酒を上げる。それが使命でございます。

山岳会としても事故なく更なる上を目指して。



今年度の総括と来年度の抱負

横山 光輝生

今年から松本を離れ上田へ、という事で、山に対するモチベーションの低下等
を心配したが、何だかんだで、毎週のように松本へ山へ、と行っていたので
このような事は全然なかった。山岳会のみんちにも色々気をつけてもらい、とても
感謝しています。ありがとう。

今年には2年生というこもあり、夏合宿は鬼のように忙しかった。

平日は上田で勉強、週末は松本へ、という単身赴任のバパのごとき暮らし
だった。授業と山を両立できず、随分授業の方を切っ飛ばし、今
激しく後悔している。夏合宿以後少し落着いたが、授業のペースは
相変わらずで、人知れず泣いた。

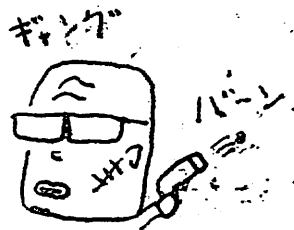
ぐちゃぐちゃの俺にして、話を山の事に戻すと、今年の僕は中途半端になっ
てしまったように思う。合宿全部に参加できた事は去年と比べると凄く良かった
と思えるが、反面2年生として、上級生としての役割をきちと果たせなかった
という点で、疑問が残る。

来年は経験不足、技術不足を解消し、自信をつけた自分というものを目指したい。
その上で、自分なりの見方を山岳会に対し出せていければと思う。

このためにも早く免許を取って、もっと自由に行動できるようにせよ。

今年には内容の濃すぎる一年だったが、来年はさらに濃い一年にしたい。

2000年が山岳会にとっても自分にとっても一歩前へ進んだような年にな
るように願う。最後に2000年もよろしく。



99年度の総括と来年度の抱負

9806024H
横山 勝彦

鬼なることを口に出すのが楽しくないが、実は意中の
の可成りいいことを覚えてしまっていた。情けなか。
一時期、二級生の個性が強すぎて、自分たちがどうも
おそれかちたなってしまうと鬼っていたが、それはどうも違う。
ただ単に自分の言うこと、することに自信がなかったのだ。
あることを言っても、二級生の意見をきいて、そればかりが
にならざるを得なかっただけであり、それを、上から強いから、
などと言いわけていた感がある。今まで丸一年登山
を登っている、それなりの判断というものを下せるはずなのに、
なかなかそれにならなっていた。とはいっても、
自分の判断を前面に押し出せる人は少ない。だから、
とんぼん個人（最初から） → 山行を出して自分からリーダーにならな
らなくてゆく必要があるし、合宿では積極的にF2隊に出
出、セッションをすすんでやることも良いと思う。そんな状況
では自分が判断しないと、前には進めないのだし。

会全体を通していうと、今年と様々な場所に出かけていた
一年だったと思う。やはりいつも同じ所ばかり行っていることは
少ないと思う。何も知らないうちに、何場かの合宿判断を下せる力量
は、もたつてくるべきだと思ふのでこの傾向は良いことと思ふ。
しかし、大きなことをやり、大きなことを言うのなら、小さなことは
何も考えずに出来て当然のことである。その点、ウレニアミスがちら
ほらしていたように思う。小さなことで事故を起したのでは何にも
ならない。最近事故が起つて来るといふことも慢心に生み出して
危険性がある。マバリ来年度は、無事故は当然のこととして、その
ハードな山行を目指す。皆みんなよく行ける山行に参加でき、また
様々な計画が出るような会にしたい。そして自分だけでなく、会の
活動に関わるようにしたい。

せよなら 1900代

大木 BOND

なんといっても遠征はデカかったし、冬合宿もヘビーだった。おまけに新人合宿と夏合宿の不参加というのもこたえる。年を振り返るとこの時期になると、合宿一つ一つの重要性がよく分かるものだ。OBが口々に「山岳会の合宿を4年間やればヒマラヤに通用する」と言っていたのがよく分かる。そう実感今日頃、同時にその人の学年に要求されている実力をまだ身につけていない人も多くなっているこの頃ではなにかと思う。

山岳会を振り返り、強く思うのは、皆それぞれによく考えているということ。しかし、同時に、『信州大学山岳会!!』

というのもない。代々受け継ぐ思想をいつぞや皆忘れ、後に残らない活動にも見えず。これではいつもお世話になっているOBの方々に申し分ない。

私が思う『山岳会』は“門戸開放”であり、“来る者拒まず”なんだ。あとは“気合”で解決できることがほとんど。そして、そして、何よりも大切なのが“熱いのみ”である。

信じている。その代の方針も大切にしたいが、変えてはならないものもあると思う。皆に『山岳会』から大いなる意志を感じ、大切に、誇りを感じてもらいたい。そういうことを思い直してやるのはいかがでしょう。

さて最後になるが、今年度もいつかの結論に達した。これを記してみたい。

一つ、夕方になれば生きてゆかない。

一つ、リーダー部員は最悪の状況下でも自分の役割をみきらなければならぬ。これ絶対。

一つ、山岳会は甘くないが、それ以上に山は甘くない。

以上

2000.1.17 BOXにて
BOND

年間総括

3年岸本

‘自分は何がしたいのか？‘自分は何をしなければならないのか？‘この1年、この問いからうまく逃げてやってきてしまった。これに気づいたときはこれは実に認めたくない大きな失敗だった。ただ惰性に身を置いている自分に気づく事ほどいやな瞬間はない。

つくかどうかはわからないが二つの問いにけりをつける、常日頃からささいなことにもこの問いかけを怠らない。これがさしあたっての課題である。とりあえず全力で解決したい。そうすることでその先の‘自分は何をすべきか‘が初めて具体的な実をもった形でわかる。とにかくやるしかないのだ。はりきっていくべし。そういうわけで最後に一句、

ながれには のるか逆らえ ながされるな (字余り)



2000年度の抱負

日高 弘次

沢にできるだけ入る。泳ぎ、ザイル、藪の出てくるような変化に富んだ沢を多く登る。岩もやる。今まであまりやってこなかったが、山を楽しもうと思うのなら、色々な山を経験しないともったいないと思う。そういう意味でも、今までやってこなかった岩をやる。

99年度は何事にも中途半端だった。それは計画性の無さから来るもので。性格からくるものだ。これからは一つ一つが次につながるような山をやっていきたい。

いつのまにか4年生である。自分の山を一つ一つこなして、4年を全うしたい。

この一年楽しもう。また、親孝行しよう。

冬合宿が無事に終わり、今年度もまた引き継ぎの時期がやってきた。今年はこのサークルのリーダーを務めさせてもらい、自分としても印象に残る1年間だった様に思う。「あ、という間だけどこかなり長い。」そんな言葉がしっくりくるのかもしれない。今年(もう去年だけ)もユニークな新入生にめぐまれ、自分のモチベーションに波があったにせよ、楽しく過ごす事ができた事に感謝したい。

自分に“上級生”という肩書きがつく少し前から常に会全体の事を意識して来た。自分かすでに知っている会の全体像、1,2年後の山岳会、自分が卒業してからのこのサークルについて。

もちろん、時期や自分の学年によって考える比重は違っていたし、個人的な理由からこれらの意識を行動に移せない時も多くあったが、常に上に述べた事を意識し、そのために自分は何をすべきなのかを考えて、できるだけの事はしたつもりでいる。ちょっとくさりもしたけど。

4年間でメンバーのほとんどが入れ変わってしまう大学山岳部の上級生に求められるものは何か。少しエロそうな事を言わせてもらうと、~~結構~~次に続く人達が、1人の岳人として、自立できるように手助けをする事だと思ふ。上の人間が急にいなくなってもなんとかやっていけるように促す事。それは技術的なものだけでなく、社会に対するもの、会の存在に対するもの等、多岐にわたる。(時期という言葉がとて大切な認識だ。)

社会的な身分がほとんどの学生が、学校の外でこれだけの活動を行えるのは、各方面の人達の支えがあってからこそだと言える。それらの人達に対するつながりや印象が、生命線だと言えるかもしれない。受け

各自が個人の欲望にはばかり目がいき、“つながり”という言葉を見失った時、山岳会の様なサークルはすぐに消滅の危機感を感じてみる必要もないが、頭つ片みに入っているか否かで、数年後に大きな違いを生む事のように思う。

この1年間の自分はこうだったのだろう。3年時の総括に、こんな事が書いてあった。

「自分の基本姿勢は、地に足を付けて、どこまで伸びる事ができるかという事。これは4年になっても変わらない。ただ、4月に入ってくる1年生が、2年、3年後に事故を起こす様な雰囲気作りはしたくない。大切なのはハラスメント感覚。常に謙虚な気持ちを持たずには、しめる所はしめて、楽しく山に登れた方がいいなと思う。」

後期に入ってから、フワフワせずに、少しはましになった様に思う。

前期、精神的にかなり不安定な状態が続いた。全身のけいれんで、朝、目が覚める。なんでも何でもあり、いろんな意味ですり切れていた。それによって生まれる不安や目も重なり、今もあまり思い出したくない。

そんな折、サマタに来て頂いたOBの方との会話の中で、「リーダーには最適な人じゃないですか」という言葉を頂いた。はげましの意見が強かったのかもしれない。それが、求めているように、今は思う。それから、1つ1つ、他の事に対して根切りができていった。

このサークルには尊敬する人間が大勢いる。みんな、生きた目を持っていて。そんな人達に出会い、4年間過ごす事のできた自分は、幸せ者なのかもしれない。

力不足、経験不足、配慮に欠けるといった自分をリーダーとして見てくれたみんな、どうもありがとう。

1ダミー、4がや、中シ、お疲れ様、and ありがとう。

お世話になった先輩方と後輩達、OBの方や、先生方に、この場を借りて感謝したい。

これから少し休んで、~~またまたまたまた~~次のスラッポに参入するのをいいなと思う。

1999年度の総括

野田 聡

今年の残念ながら活動に参加出来なかった。もし参加出来たら
こそおかしなところだろうに。残念であった。

結果的に当初目標としてあげた コミュニケーション には不満足が
残るのはお互いの所だった。この年のためだけに、下級生の意見等反映を
する場と機会がもう少しあると良かったのかもしれない。そうすれば2
年生等が発言を始めるのがもう少し早くなったと思つた。

また、一年をもう少し山に登りて行けると思つた。行けなかった。川井
一人に負担が集中している面があり、解消できなかった。結果的には
無理だったのだから。

さて、4年生のための総括をもう少し全体に向けてみようか。自分から全体へ
自分が事域として会いに来て。おは会の内の個人としてどうだった
のだろうか。必要以外はあつた口を出さないように努めたが（根が細か
いので、かき言ってしまうのは許して頂きたい）どうだったと思う。見える面の
増えたのだろうか。失敗する機会が増えたのだろうか。陰になつたか？ 自分で
何と判断出来ない。次、やはりある雰囲気は作れたが、労儀を得る物
については伝えられたのだろうか。これは2000... 判断が難しいので、全体に勧める

どうだろうか。今年が充実の年。と、思ふのはないが、個人的には思
ふ。スラッ? ジャンプ? のホップにはなっているだろう。
おはしい経験がたまたま出来たと思つた。新人合宿から冬合宿、失敗し
いう合宿はなかった。一年生も大活躍した。何と、秋以降が楽しめた
ことだろう。もう少し、おはしい雰囲気さえなくせれば、他に言う事は何
もない。つり加えたら一部において見られる人の自分に言い訳をするこ
とを減らす必要がある。

飛躍の年に向けて、今年も少し見られたが、事故の陰に常に追いかられる
様になるだろう。高く登る程陰は深まり、自分に近づいてくる。
実力と理想の天秤をいつも心に置く。重さをうまくお引かなければ
ならない。

期待はしておはしい仲間におはされた。有難う。

赤栄



1年間の総括

中島辰哉

この1年間ははっきり言えば、前年度に引き続き技術的体力的な向上はあまりなかったといえる。しかし、いろいろなことを両立するという自分なりの目標はそれなりに達成できたのではないかとも思う。

また、4年という立場の役が果たせたかどうかは大いに疑問が残る。自信のなさ、無責任さ、他力本願という3拍子に支配されていた1年間だったかもしれない。とにかく去年に引き続き、自己内省ばかりの年であった。ただ、当初の目標としてのコミュニケーションの確立という点では、山もそれほど多く皆と行ってないし、それほど積極的に普段でも会の皆と行動したとはいえないにかかわらず、何らかの結末はあったのではないかと思う。

とにもかくにも、この1年間は多様な会の皆のお蔭で楽しかった。

これからのこと

これからはもう卒業だし、はっきり行ってどうなるか皆目見当がつかない。とりあえず環境が変わり、大きな変化があるのだろう。



うどんスープ。




ヒガシマルの

8g・8袋入

今年度総括

4年 麦谷 水郷

高校の調査書(何でそんなもん持っているかは秘密)を見てみると、私の性格は「自律的な強さ」があると書かれている。この自由奔放で、我が儘で、個人主義で己の欲を制することのでいない私に、そんな風に思われていた時代があったなんて超意外である。今年度の自分の行動を振り返ってみても、自律的なところはミジンコほどもなかったと言わざるを得ない。会のことは他の人に任せて、自分は自由気ままにし、自分の行きたい山こうにだけ参加していた。だから、当然のこととしてコミュニケーションの目標を達成できるはずなく、みんなが努めてコミュニケーションを取ってくれてかろうじて存在していられたわけで、結局、僕は甲斐性が無く、自分に対して憤りを感じざるを得ないわけで、穴があったら入りたい気持ちであるわけで、なんだか眠たくなってきたわけで、最後にみなさんありがとうといいたいわけです。

	ご使用法の一例		
	鍋焼きうどん(1人分)	お吸物(1人分)	炊き込みご飯(5~6人分)
<p>①「うどんスープ」1袋を約200cc(茶7分目の熱湯)に溶かします。</p> <p>②お好みでかまぼこ、うすあげなどを添えてお召しあがりください。</p>	<p>水カップ1+杯</p> <p>「うどんスープ」1袋</p> <p>うどん1玉</p> <p>お好みの具</p>	<p>「うどんスープ」+袋</p> <p>お湯160cc</p> <p>トコロ昆布、わかめ、ネギなどお好みの具</p>	<p>米カップ3杯</p> <p>「うどんスープ」2袋</p> <p>お好みの具</p>
	★うどんスープはあらゆる料理に使えます。		

編集後期

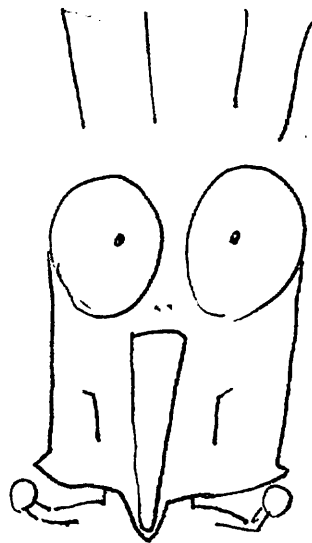
・ ドラゴンアッシュの greatful day (たまたまと思うんだけて)
すからたかな. このタイトル、なかなかヨカヨカ。

(11)

・ 中学校時代の塾の塾長が強制わいせつで
1973年。古株の先生はすでにやめていたらしい。
最近ショックな出来事でした。

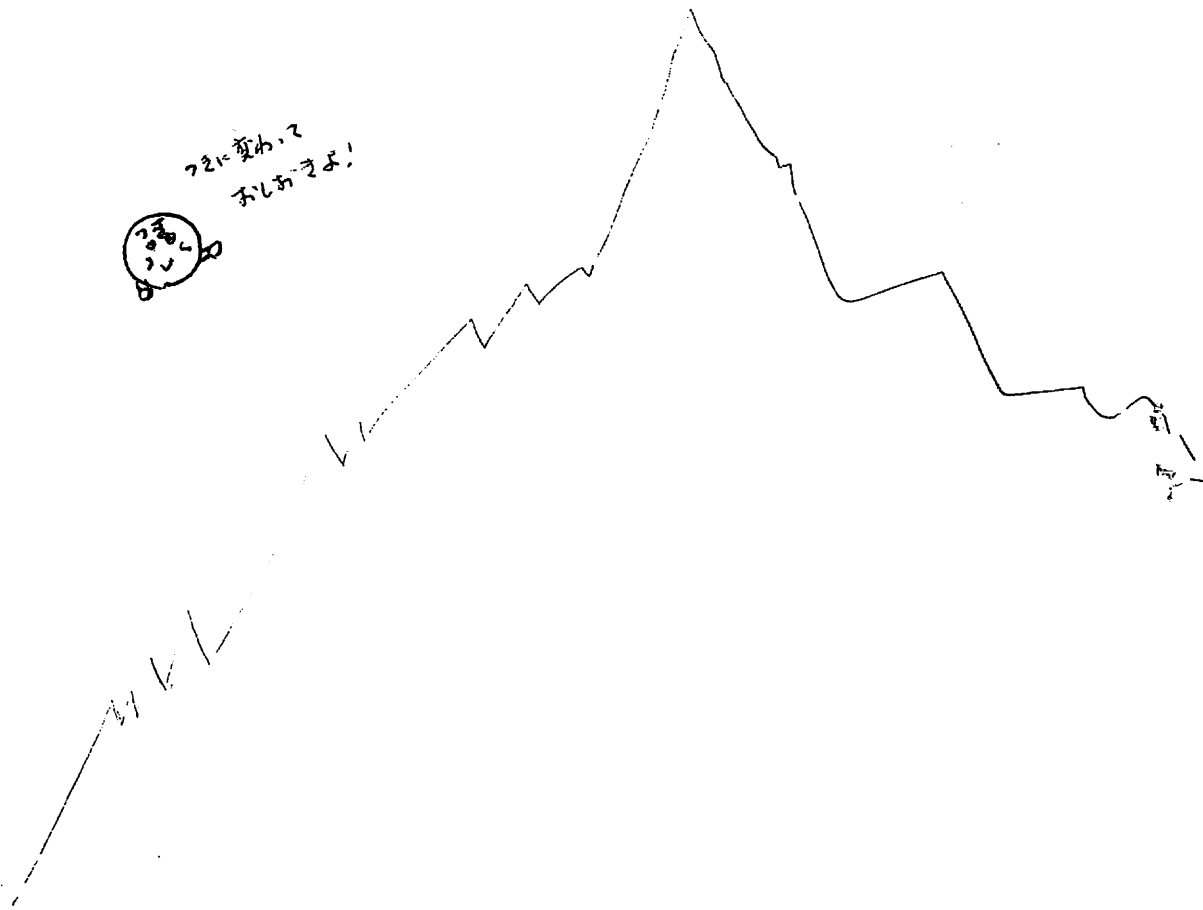
自分は人に同じに人生の途中でご飯をばらまかない標
にしたいものぞ。

(野田)



ちま- 211, <1> and ハッピョー

つぎに変わって
おしおてよ!



表紙 エフ中村

編集 川井

発行 印刷 松本

1999年改め 2000年 1月19日 毎松士共